

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 97
2019年

2019年度 全国大会開催案内

発行 日本庭園学会(会長 佐々木邦博)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園文化研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/

2019年度 日本庭園学会全国大会 開催案内

記

■日程

2019年6月15日(土)～16日(日)

■概要

6月15日(土) 現地検討会、情報交換会

午前：目白台界限 和敬塾細川家洋館、講談社蕉雨園等

午後：小石川後楽園

情報交換会：涵徳亭(小石川後楽園内)

6月16日(日) 研究発表会および総会、シンポジウム

会場：東京大学農学部フードサイエンス棟

中島董一郎記念ホール(東京大学農学部)

■内容

◆2019年6月15日(土)

現地検討会、情報交換会(詳細はP.4参照)

※現地検討会は、雨天の場合コースを変更する場合があります。

午前：現地検討会 甘泉園公園 8:30 受付 9:00 開始

※和敬塾細川家洋館からも参加可能

午後：現地検討会 小石川後楽園集合 15:00 開始

情報交換会 小石川後楽園涵徳亭

17:30 受付、18:00 開始

事典編纂委員会を16:30～17:30まで行います。

◆2019年6月16日(日)

研究発表会：発表15分、質疑応答5分、合計20分

(交替時間を含む)

08:40～08:55 受付

08:55～09:00 開会挨拶

09:00～09:20 大名庭園の石造物遺構

—旧岩崎邸庭園の場合—

齋藤小百合(庭文化研究所)

09:20～09:40 特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」の露地遺構について

正田実知彦(福岡県人づくり・県民生活部文化

振興課世界遺産室)

09:40～10:00 中・近世における法金剛院庭園について

鈴木久男(京都産業大学文化学部)

10:00～10:20 霊鑑寺にみる門跡尼寺の特質

今江秀史(京都市文化市民局文化財保護課)

10:20～10:40 社会構築主義によるアプローチ；

時間芸術、オーラルヒストリー、庭

森泰規(株式会社博報堂)

10:40～10:50 休憩

10:50～11:10 小田原城跡の植栽整備計画

宮内泰之(恵泉女学園大学)

11:10～11:30 小石川後楽園の植物管理のあり方

中島宏((公財)都市防災美化協会)

<問い合わせ>

宮内泰之(日本庭園学会 総務担当)

電話：042-376-8602 メール：miya@keisen.ac.jp

11:30～11:50 **野花の管理**
 ー無鄰菴庭園の価値性を尊重してー
 阪上富男（植彌加藤造園株式会社）

11:50～12:10 **都立文化財庭園の管理運営**
 永田雅之（公益財団法人東京都公園協会公園
 事業部文化財庭園課・九州大学大学院芸術工
 学府芸術工学専攻）

12:10～12:30 **肥後細川庭園の縮景と「小嵐山園」にみ
 る見立てと寓意**
 鈴木誠（東京農工大学地域環境科学部
 造園科学科庭園文化研究室）

【特別報告】

12:30～12:50 **肥後細川庭園の運営と管理について（仮）**
 森美紀子（肥後細川庭園）

【情報提供】

12:50～13:05 **海外日本庭園再生プロジェクトとガーデ
 ンツーリズムの取組**
 五十嵐康之（国土交通省）

13:05～13:45 昼食休憩／理事会

13:45～14:15 総会・学会賞受賞者表彰式
 ／シンポジウム受付

【シンポジウム】

テーマ：江戸時代の大名庭園から近代庭園へ

14:15～14:16 開会挨拶 佐々木邦博会長

14:16～14:20 趣旨説明 原祐一

14:20～14:40 **近代以降の文化財庭園のあり方について**
 ー小石川後楽園を事例としてー

加藤元信（文京ふるさと歴史館）

14:40～15:20 **向ヶ岡の大名庭園と近代庭園の展開**

原祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）

15:20～15:30 休憩

15:30～16:10 **「肥後細川庭園」前史**

町田聡（文京区教育委員会）

16:10～17:10 **旧徳川昭武庭園（戸定邸庭園）の特徴と
 近代**

藤井英二郎（千葉大学名誉教授）

17:10～17:20 休憩

17:20～17:40 コメント及び質問

17:40～17:50 閉会挨拶 佐々木邦博会長



シンポジウム会場周辺

研究発表 概要

1 大名庭園の石造物遺構 —旧岩崎邸庭園の場合—

齋藤小百合（庭文化研究所）

文京区の旧岩崎邸庭園は、明治期に洋館と和館と共に設計された近代庭園であるが、江戸時代高田藩榊原氏の池之端中屋敷時代からの遺構と思われる石燈籠や石碑、祠などの石造物が現在も確認される。石碑にはこの庭の持っている本質的価値が示されているなど、これらの石造物は絵図などと共に、史料として活用でき、今後保存活用される必要性を感じる。旧岩崎邸庭園において江戸の石造物遺構がどのように扱われていたのか考察し発表したい。

2 特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」の露地遺構について

正田実知彦（福岡県人づくり・県民生活部文化振興課世界遺産室）

佐賀県唐津市に位置する特別史跡名護屋城跡並陣跡は、豊臣秀吉が朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の際に拠点とした城及び諸大名の陣跡からなる。名護屋城は、天正19年（1591）10月から築城がはじまり、着工から約5か月後の天正20年（1592）2月に城の主要部分が完成した。当地には、露地関連遺構が10か所確認されている。今回は、主に秀吉の私的空間であった名護屋城山里丸に残された露地遺構の特徴について報告する。

3 中・近世における法金剛院庭園について

鈴木久男（京都産業大学文化学部）

法金剛院は大治5（1130）年に鳥羽天皇の中宮であった待賢門院によって供養された寺院である。待賢門院の逝去後、徐々に荒廃が始まったようである。今回の発表は、昭和・平成に実施された発掘調査成果から、法金剛院庭園の変遷を考察したい。

4 霊鑑寺にみる門跡尼寺の特質

今江秀史（京都市文化市民局文化財保護課）

京都市左京区の如意ヶ岳（大文字山）の麓に所在する霊鑑寺は、後水尾天皇の第12皇女月江宗澄（多利宮）を開山とする門跡尼寺である。従来、門跡寺院は文化財（史跡・名勝）としての価値付が行われてきたが、門跡尼寺については希薄であった。またそれらは寺院の庭として捉えられ、宮廷との結びつきが考慮されてこなかった。そこで本研究では、霊鑑寺の庭の成立の経緯を辿るとともに、門跡寺院の実相院と対照して、尼門跡寺院の特質を浮き彫りとする。

5 社会構築主義によるアプローチ；

時間芸術、オーラルヒストリー、庭

森泰規（株式会社博報堂）

社会構築主義（Social Construction-ism）は、「社会事象は実在するというよりむしろ様々な関係性のうちに創り上げられるという立場を採る」（Giddens, 2017, p.42. Wiley.）社会学的視点である。筆者は演奏芸術のように時間的経過の基で構築される分野（作曲されただけでは作品になっていない）に親しみ、オーラルヒストリーで対話が創り出す相互構築的な性格と威力を実感した。この発想法の基で「作っただけでは創ったことにならない」とされる日本庭園へのアプローチを試みたい。

休憩

6 小田原城跡の植栽整備計画

宮内泰之（恵泉女学園大学）

小田原城跡ではサクラ類や豊かな樹叢が市民に親しまれてきた。その一方、繁茂した植栽による遺構への攪乱や天守閣への眺望の阻害等、史跡と緑との共生が課題となっている。さらに、2011年度より継続して実施している御用米曲輪の整備では、江戸期の蔵跡に加え戦国期の庭園遺構も発掘され、重層的な構造が明らかになりつつある。本報告では、小田原城跡の植栽について、まず現状と課題を整理し、今後の整備計画について検討を行う。

7 小石川後楽園の植物管理のあり方

中島宏（（公財）都市防災美化協会）

小石川後楽園は、創成期から現在まで庭園の空間構成の変遷や時間の経過に伴い、植物の構成は著しい変化を引き起こしている。昨今顕在化してきたこのような課題や、文化財指定時の指定理由と、歴史公園としての庭園利用を念頭において、質の高い植栽管理をする必要がある。

そのためには、まず、管理目標とする時代設定を明確にし、つぎに、作庭時から文化財指定時までの植栽構成の推移を検討する。さらに、近年の植物生育状況と推移を把握した上で、管理目標とした植栽構成とを比較対照し、かつ利用に供しながら現状をどうやって目標に近づけられるのか、近づけていけるのか、現実的に実施可能な植栽管理のあり方を探っていく。

8 野花の管理 —無鄰菴庭園の価値性を尊重して—

阪上富男（植彌加藤造園株式会社）

無鄰菴庭園は施主・山縣有朋の趣向性を反映し1896年に築庭され、1951年に国名勝となった。経年及び周辺環境の変遷により庭園も姿を変えてきたが、この点の検証は手付かずであった。尼崎博正「庭園の美—その保護のために—」（『月間文化財』2006年）にて、無鄰菴の古写真（1909年）にみる野花に現行の管理を見直す必要に気付かされた。自生である野花を新たな価値として現代の観賞や環境条件で生かす育成管理について報告する。

9 都立文化財庭園の管理運営

永田雅之（公益財団法人東京都公園協会公園事業部文化財庭園課・九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻）

東京都公園協会は平成18年度より指定管理者として都立文化財庭園9か所の管理運営を行っている。管理運営に当たっては、有識者から成る専門委員会を設置して「庭園文化の伝承と発信」を基本テーマとする中期計画を作成し、「ほんもの」の庭園を観る・識る・遊ぶをスローガンとして事業を進めてきた。今回は、中期計画の考え方、そして現在までの事業成果について報告する。

10 肥後細川庭園の縮景と「小嵐山図」にみる見立てと寓意

鈴木誠（東京農業大学地域環境科学部造園科学科庭園文化研究室）

平成29年（2017）3月にリニューアルオープンした東京都文京区の肥後細川庭園（旧称：新江戸川公園）の池泉庭園部分の空間構成・景観構成について、この庭園の明治時代半ばころの姿を描いたとされる絵画「小嵐山図」（杉谷雪樵筆、明治27-28年頃、永青文庫蔵）に描かれた庭園景観と、現在の庭園景観、そして京都嵐山の現在と明治時代以前の景観とを対照し比較検討した。その結果、肥後細川庭園は名勝嵐山の風景の縮景により景観構成され、その庭園景を構成する全体や部分には実際の嵐山の風物の見立てと寓意が込められていることを具体的に指摘した。

11 特別報告 肥後細川庭園の運営と管理について（仮）

森美紀子（肥後細川庭園）

肥後細川庭園の管理運営の現状を説明して頂きます。

現地検討会 情報交換会 タイムスケジュール

※当日雨天の場合コースを変更します。

◆ 現地検討会 午前の部

甘泉園公園集合 8:30～受付 9:00開始

参加費・資料代含む：1,500円

最寄り駅 東京メトロ副都心線 雑司ヶ谷駅から徒歩12分

都電荒川線 面影橋停留所から徒歩5分

テーマ：目白台界隈の立地と場所性 大名庭園から近代庭園への展開

甘泉園公園一山吹の里碑一目白台一丁目遺跡（日本女子大学図書館）一水戸藩目白邸園（目白台運動公園）休憩一和敬塾細川家洋館一蕉雨園一肥後細川庭園一
以下、自由行動 関口芭蕉庵一椿山荘（予定）

※注意事項

和敬塾細川家洋館と蕉雨園の見学は、和敬塾、講談社ならびに音羽建物両社の配慮で特別に拝観をさせて頂ける事となりました。参加者は、この点について留意頂き、和敬塾、音羽建物ご担当者の指示遵守をお願いします。細川家洋館は写真撮影可能ですがSNS等への情報開示等は禁止です。蕉雨庵は無断での撮影、SNS等へ情報開示等も禁止であることを理解の上、厳守をお願いします。細川家洋館は当日の貸し出しによっては見学できない部屋もありますのでご了承ください。

※地方から参加される方、早朝から参加できない方

和敬塾細川家洋館から参加可能です。甘泉園公園から日本女子大学図書館までは急坂が続くため、自信がない方も和敬塾細川家洋館から参加してください。10時30分に和敬塾正門到着予定です。参加申込書に和敬塾細川家洋館から参加と記入ください。

和敬塾最寄り駅 東京メトロ副都心線 雑司ヶ谷駅から徒歩12分
東京メトロ有楽町線 護国寺駅から徒歩10分

※雨天の場合

都営副都心線 雑司ヶ谷駅改札 学習院大学・日本女子大学側集合 9:30～受付 10:00開始

※午後の現地検討会会場の小石川後樂園までは、椿山荘からタクシーで1,000円程度。

◆ 現地検討会 午後の部

小石川後樂園 入口集合 15:00～16:30

◆ 第2回事典編纂委員会 16:30～17:30

◆ 情報交換会 小石川後樂園涵徳亭

受付17:30 18:00～20:00

会費：一般・会員 4,500円、学生 2,000円（予定）

※当日キャンセルの場合でも会費は頂きます。予めご承知おき下さい。

※上記に伴い、会食を（財）東京都公園協会レストランに発注するため、情報交換会へ参加される方は、6月7日（金）必着で、原（y-hara@dolphin.ocn.ne.jp）もしくは加藤（Motonobu_Katoh@city.bunkyo.lg.jp）までお知らせ下さい。

※涵徳亭は飲物、食事持ち込み可能です。



現地検討会午前の部 周辺地図



現地検討会午前の部 集合場所



途中参加の方の集合場所 (和敬塾正門)



現地検討会午後の部 小石川後楽園周辺



現地検討会午後の部 小石川後楽園集合場所

関係国際学術団体（連携協定・連携協力学協会）の紹介

東京農業大学地域環境科学部造園科学科 鈴木誠

当会と連携協定あるいは協力関係にある学術団体の紹介をします。

1. 連携協定・連携協力学協会

表題に掲げた「関係国際学術団体」は、日本学術会議の「学術団体調査票」中の情報登録欄の一つで、日本庭園学会が登録（2014）している関係団体は3つある。

2012年最初に連携協定を結んだ「北米日本庭園協会」(North American Japanese Garden Association 略称NAJGA)、2013年に協定締結の「韓国伝統造景学会」(Korean Institute of Traditional Landscape Architecture)、そして協定締結はしていないが連携協力関係を維持して、定期刊行物のやりとりや情報交換を2012年より実施している「日本庭園協会（英国）」(Japanese Garden Society 略称JGS)の3つである。

加えて、昨年アメリカのポートランドで開催された第4回NAJGA国際大会（2018年9月29日-10月1日）にて「デンマーク日本庭園協会」(Japanese Garden Society of Denmark)から今後の情報交換と、連携協力への申し出があり機関誌（デンマーク語）の寄贈を受けている。

今回より、ニュース記事としてこれらの学協会の概要を紹介して会員諸氏の今後の国際活動の参考とさせていただきたい。

2. 北米日本庭園協会 (NAJGA/ ナジュガ)

North American Japanese Garden Association
422 NW 13th Avenue, #266, Portland, OR 97209
E-mail: info@najga.org Tel: +1 (619) 232-2780
URL: https://najga.org

NAJGAは2011年9月22日に発足した。この団体については、その成立経緯に日本庭園学会のメンバーも深く関わり、またその後2012年からこれまで4回開催されている国際大会（隔年開催）へも、毎回日本庭園学会員の参加・研究発表があることから、その設立経緯も含めて紹介することにする。

(1) NAJGA 設立まで (NAJGI の活動)

NAJGA 設立に向けては、2010年より North American Japanese Garden Initiative (NAJGI) が活動を開始し、北米での打合せ会議を開催した。2010年3月27-28日 NAJGI 準備会東京会議（於：ホテルニューオータニ）が開催されている。この時の出席者は北米の日本庭園を代表する人々に加え、日本側からは日本庭園学会、日本庭園協会、日本造園学会、日本造園建設業協会、日本造園組合連合会、京都造形芸術大学、千葉大学、東京農業大学などから参加者を

得て、北米における日本庭園関連団体の設立支援とその団体とのコンソーシアム形成が検討された。

その後、2010年冬フェニックス日本庭園において最初のNAJGI公式会議が開催され活動を開始した。続くデンバー植物園の会議では、北米の下記15の日本庭園管理団体・日本庭園関係団体（代表）がリーダーとなり、後にNAJGAとなる団体設立へ向けての議論が展開された。

NAJGA LEADERSHIP GARDENS:

Anderson Japanese Gardens, Rockford, IL

The Japanese Hill and Pond Garden, Brooklyn Botanic Garden, NY

Birmingham Botanical Gardens, AL

Sansho-en, Chicago Botanic Garden, IL

Shofu-en, Denver Botanic Garden, CO

Earl Burns Miller Japanese Garden, CSULB, Long Beach CA

Fort Worth Botanic Garden, TX

Hakone Gardens, Saratoga, CA

Japanese Friendship Garden of Phoenix, AZ

Seiwa-en, Missouri Botanical Garden, MO

The Japanese Garden of the Montreal Botanical Garden, Quebec, Canada

Portland Japanese Garden, OR

Shofuso Japanese House and Garden, Philadelphia, PA

Slawson Creations, Seven Hills, OH

Nitobe Memorial Garden, UBC Botanical Garden & Centre for Plant Research, Vancouver, Canada

このNAJGIはプロジェクトとして発足し、その成果としてNAJGAが成立したことから、NAJGIの活動はNAJGAに継承された。

なお、NAJGI発足の契機となったのは、2009年3月26-29日にかけてカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）にて開催された国際会議「International Conference on Japanese Gardens Outside Japan」である。この時に共有された北米の日本庭園相互の連絡ネットワーク構築の必要性認識から、同大学とポートランド日本庭園との共同プロジェクトとして、米日財団、国際交流基金日米センターからの支援を受けてプロジェクトがスタートした。当時の発起人はKen Brown (Professor of Art, CSULB)、Jeanette Schelin (Sr. Director of the EBM Japanese Garden, CSULB)、Stephen Bloom (Executive Director, Portland Japanese Garden)であり、北米の代表的な次記10庭園が参加した。

The NAJGI Leadership and Host Gardens :

Birmingham Botanical Gardens, Birmingham, AL
 Brooklyn Botanic Garden, Brooklyn, NY
 Chicago Botanic Garden, Glencoe, IL
 Denver Botanic Gardens, Denver, CO
 Fort Worth Botanic Garden, Fort Worth, TX
 Hakone Gardens, Saratoga, CA
 Japanese Friendship Garden of Phoenix, Phoenix, AZ
 Jardin Botanique de Montréal, Montréal, QC
 Storrier-Stearns Japanese Garden, Pasadena, CA
 UBC Botanical Garden, Vancouver, BC

(2) NAJGA の地域会議と国内大会・国際大会

NAJGA の最初の会合は、The first Regional Meeting (第1回地域会議)として2011年9月23-25日イリノイ州シカゴ植物園にて開催された。その後、2012年にコロラド州デンバー、バージニア州リッチモンド、カリフォルニア州オークランドにての地域会議開催を経て、2012年10月12-14日にデンバー植物園(コロラド州)にて第1回国際大会が開催された。その後の、地域会議としては2013年5月メンフィス植物園(テネシー州)、8月オークランド(カリフォルニア州)、9月フィラデルフィア(ペンシルベニア州)と続けて実施された。そして、2014年10月16-18日には、第2回国際大会がシカゴ植物園(イリノイ州)にて開催され、その後の国際大会は2016年3月6-8日モリカミ博物館・日本庭園(The Morikami Museum and Japanese Gardens、フロリダ州)、2018年9月28日-10月1日ポートランド日本庭園(オレゴン州)、次回2020年の開催はサンディエゴ日本友好庭園(カリフォルニア州)の予定である。また、隔年開催の国際大会が無い年は、現地検討会・ワークショップ、交流会等が主体の国内大会を実施しており、2017年の国内大会はリリウオカラニ日本庭園(Lili'uokalani Park and Gardens、ハワイ州)にて開催された。

なお、機関誌「NAJGA Journal」第1号が2013年5月に発行され、以後毎年刊行されて2018年10月の国際大会時の最新号は5号となっている。

(3) NAJGA の目的と活動方針

NAJGA の目的は、北米の日本庭園の持続的発展であり、そのために「Horticulture ホーティカルチャー」、「Human Culture ヒューマンカルチャー」、「Business Culture ビジネスカルチャー」

といった日本庭園に関連した3分野において、北米の日本庭園の発展を目指した下記5種類の活動を実施している。

Information sharing and networking opportunities
 (情報共有とネットワーク機会の提供)

Professional training and development
 (専門研修や能力開発)

Public education, conferences and symposia
 (市民講座や各種会議・シンポジウムの開催)

Research and scholarly activity
 (調査研究や学術活動)

Advocacy and public relations
 (社会提言や広報活動)

そして「NAJGA 活動の基本方針」としては3つを掲げている。

- ① 日本庭園関係者の多様性の尊重：公共の日本庭園管理者、ガーデナー、ガーデンデザイナー、造園業者、各種関連ビジネスオーナー、学者、学生、文化・芸術関係者、一般愛好家など全てを認識する。
- ② この分野の市民活動としての基本的性格の尊重：地域の要求を認識して地方分権的な組織運営を評価する。
- ③ 既に存在する北米の観点の尊重：日本のコンソーシアム・パートナーとの連携・交流を促進し、日本からの専門知識摂取に努めながらも北米の視点を重視する。

以上、連協協定を結んでいるNAJGAを紹介してきたが、2018年のポートランドにて開催された国際大会には13カ国から300名を超える参加者があった。日本人の参加者も数十名を数え、その中には日本人学生十数人の姿があり会場を盛り上げていた。

(2019年4月27日 文責 鈴木誠)

- 1) 「北米日本庭園協会と相互交流に関する連携協定が締結」、日本庭園学会ニュース、No. 73、2013.10、6-8
- 2) この国際会議は、日本国外において日本庭園(海外の日本庭園)を主題にして開催された国際シンポジウムとして、最大規模のものとなった。参加者はおよそ300名。その記録は、「International Conference on Japanese Gardens Outside Japan」のタイトルによりDVD(全6巻)記録され有償頒布されている。(東京農業大学国際日本庭園研究センター蔵)
- 3) 牧田直子(2013)、報告 北米日本庭園協会第1回世界大会、日本庭園学会ニュースNo. 73、7

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：中野理香、小椋菜美(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342